

2023年10月26日
プレスリリース No.015-23

浜松市北区引佐町「久留女木の棚田」において

静岡文化芸術大学の引佐耕作隊が1年間育てた稲を収穫します（稲刈り）

静岡文化芸術大学「引佐耕作隊（いなさこうさくたい）」は、同大学の学生有志によって結成され、2016年から浜松市北区引佐町「久留女木の棚田」において耕作放棄地を活用し、米作りを行ってきました。引佐耕作隊は、米作りだけでなく収穫した米を販売することによって耕作放棄地を活用することで発揮される「棚田の多面的機能」について伝えています。さらに、販売収益を活動費に充てることで持続可能な活動とすることを目指しています。

新型コロナウイルス感染症流行によって米作りの中断を余儀なくされてから、耕作面積を減らしていましたが、今年度はコロナ前と同じ3枚の田んぼ（約480㎡）を耕作しています。作業面積が増えたことで作業の勝手がわからず戸惑う時もありましたが、地域の方々に作業を教えていただいたり、手伝っていただいたりして何とか収穫を迎えることができました。稲刈りの実施に際して、報道機関の皆様には、是非当日の取材をお願いいたします。

記

名称：静岡文化芸術大学学生グループ「引佐耕作隊」による稲刈りの実施

日時：2023年10月28日（土）10:30～16:00

2023年10月29日（日）13:00～16:30

場所：浜松市北区引佐町久留女木地区「久留女木の棚田」

参加者：静岡文化芸術大学学生10名（土曜日）、6名（日曜日）

内容：【「久留女木の棚田」について】

浜松市北区引佐町にある観音山の南西斜面（標高250m付近）に位置しています。総面積は7.7ha、その中に約800枚の田んぼがあると言われ、その美しい景観は農林水産省の指定する「つなぐ棚田遺産（ポスト棚田百選）」や「静岡県景観賞」にも選ばれています。この棚田は、平安時代が起源とも言われ、とくに戦国時代に井伊氏（井伊直虎の祖父）の庇護のもと、開墾が進んだと考えられており、古い歴史と文化を有する棚田です。

しかし、最近の農家の後継者不足から耕作されなくなる棚田が多くなっています。棚田が荒れてくると、棚田の美しい景観が損なわれるだけでなく、土砂崩れの抑制や交流の場の創出などの「棚田の多面的機能」も発揮されなくなります。そこで同大学の学生で「引佐耕作隊」を結成し、2016年度から「久留女木の棚田」でお米作りに取り組みできました。

そして、今年度も無事にお米の収穫時期を迎えることができました。

【「引佐耕作隊」の活動】

引佐耕作隊は、およそ1～2週間に1度の頻度で田んぼに通い、田起こしから代掻き、水管理や施肥、除草、稲刈りや脱穀といった米作りの全ての工程を学生主体で行っています。また、収穫した米（品種：にこまる）については、「棚田の多面的機能」をデザインしたパッケージに詰め、同学生協購買や市内の飲食店などの商業施設で販売しています。その販売収益は次年度の活動費（苗代や肥料代、機械の管理費など）に充て、持続可能な活動になるよう取り組んでいます。

昨年度は「久留女木地域振興協議会」のプロジェクトとして、農作業を説明する動画の作成を行うなど、米づくり以外の面でも久留女木の棚田、久留女木地区にかかわっています。

【今年度のスケジュール】

5月：代掻き 6月：田植え 7～9月：草刈り 10月：稲刈り 1月：米販売

問合せ：静岡文化芸術大学 文化政策学部 文化政策学科 3年 植田勝也
電話：090-9267-8745 E-mail：g2112004@suac.ac.jp

<本リリースに関する問い合わせ>

静岡文化芸術大学 地域連携室

Tel. 053-457-6105 / Fax. 053-457-6123

Email. chiiki@suac.ac.jp

公式Webサイト

